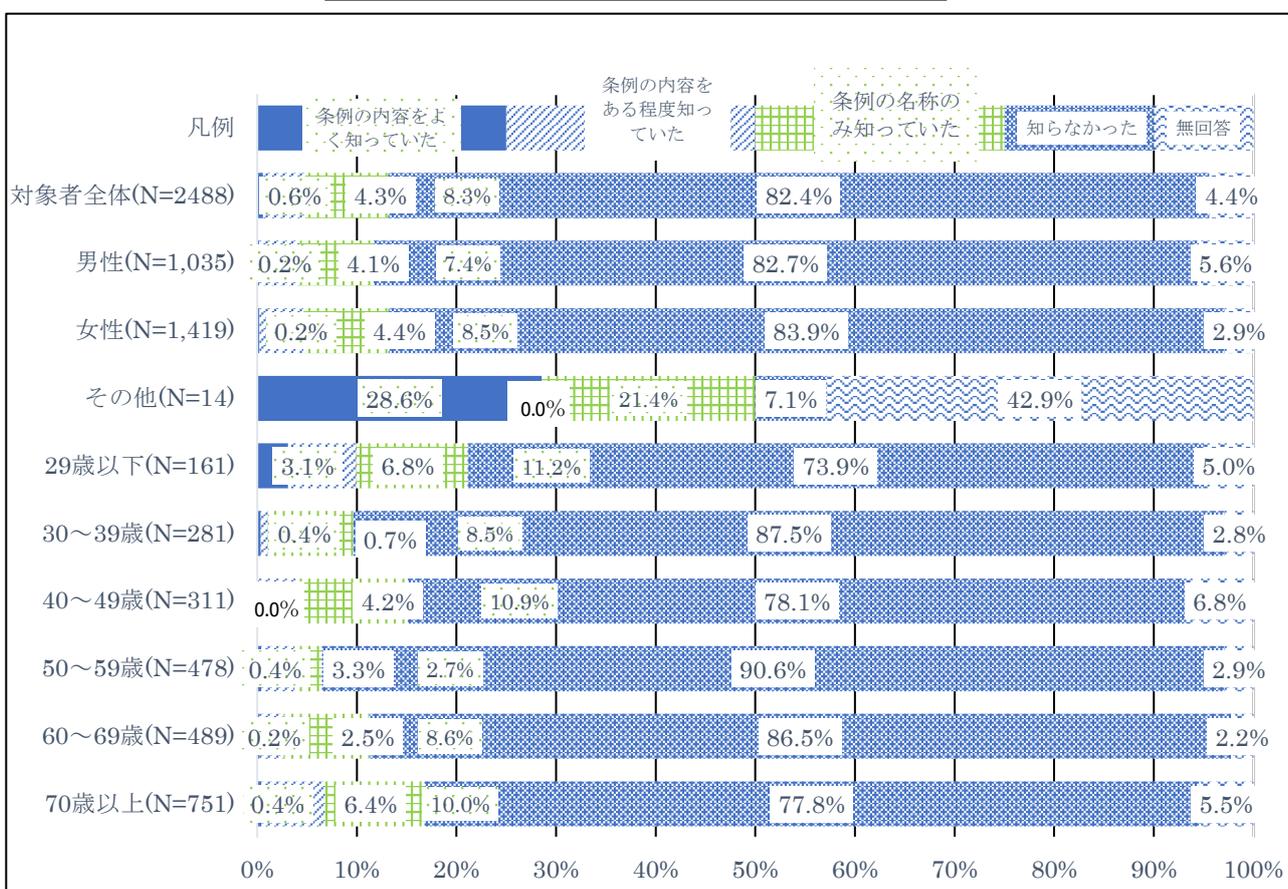
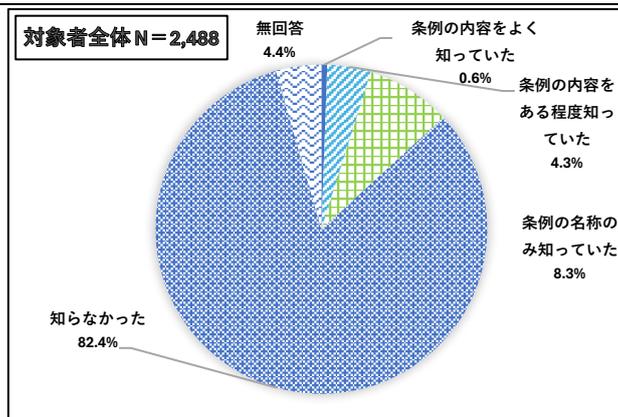


(5) 障がい者コミュニケーション条例について

◇障がい者コミュニケーション条例の認知度

問33 あなたは、「札幌市障がい特性に応じたコミュニケーション手段の利用の促進に関する条例」を知っていましたか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

障がい者コミュニケーション条例の認知度は、「知らなかった」人が82.4%



【全体】障がい者コミュニケーション条例の認知度は、「知らなかった」が82.4%、「条例の名称のみ知っていた」が8.3%、「条例の内容をある程度知っていた」が4.3%となっている。

【性別】男女で大きな差は見られない。

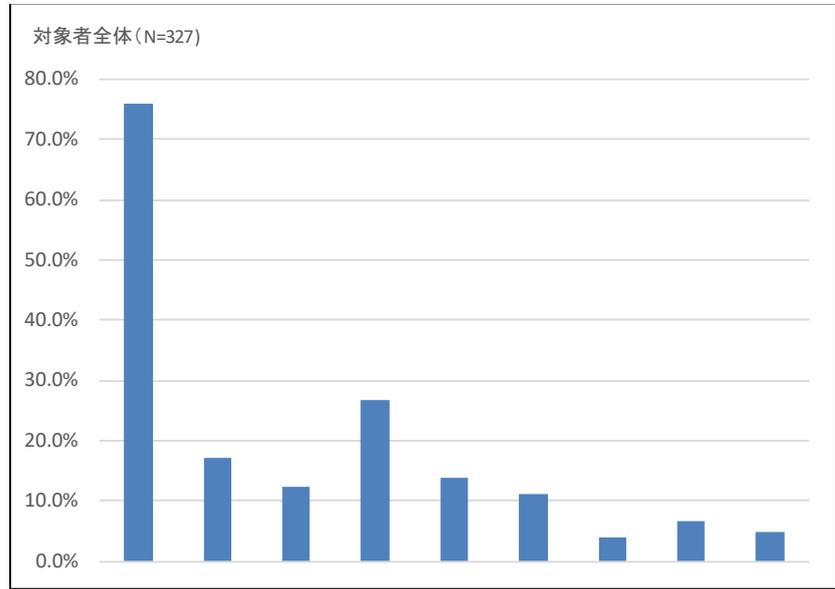
【年代別】「知らなかった」が50歳代(90.6%)で最も高く、最も低い29歳以下(73.9%)と比べると、16.7ポイントの差となっている。

◇障がい者コミュニケーション条例を知ったきっかけ

《問33で「1 条例の内容をよく知っていた」「2 条例の内容をある程度知っていた」「3 条例の名称のみ知っていた」と答えた方にお聞きします。》

問33-1 あなたは、「札幌市障がい特性に応じたコミュニケーション手段の利用の促進に関する条例」を何で知りましたか。あてはまるものにもいくつか○をつけてください。

障がい者コミュニケーション条例を知ったきっかけは、「広報さっぽろ」が75.8%



		対象者数	広報さっぽろ	ポスター・チラシ・パンフレット	ホームページ	新聞・テレビなどの報道	家族、知人	市役所や区役所の窓口	その他	覚えていない	無回答
(%)											
対象者全体		327	75.8%	17.1%	12.2%	26.6%	13.8%	11.0%	4.0%	6.7%	4.9%
性別	男性	121	73.6%	17.4%	9.9%	33.1%	18.2%	9.1%	3.3%	7.4%	4.1%
	女性	187	80.2%	17.1%	14.4%	24.1%	11.8%	11.8%	4.3%	5.9%	5.3%
	その他	7	57.1%	14.3%	14.3%	-	14.3%	-	14.3%	-	14.3%
年代別	29歳以下	34	88.2%	8.8%	-	26.5%	5.9%	8.8%	5.9%	5.9%	0.0%
	30～39歳	27	70.4%	7.4%	3.7%	22.2%	7.4%	11.1%	-	3.7%	7.4%
	40～49歳	47	51.1%	6.4%	4.3%	44.7%	10.6%	6.4%	2.1%	4.3%	2.1%
	50～59歳	31	64.5%	64.5%	83.9%	90.3%	-	48.4%	6.5%	22.6%	19.4%
	60～69歳	55	94.5%	16.4%	5.5%	16.4%	7.3%	12.7%	3.6%	10.9%	7.3%
	70歳以上	126	79.4%	15.1%	6.3%	9.5%	5.6%	4.0%	3.2%	3.2%	2.4%

■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い
 ■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全体】障がい者コミュニケーション条例を知ったきっかけは、「広報さっぽろ」が75.8%、「新聞・テレビなどの報道」が26.6%、「ポスター・チラシ・パンフレット」が17.1%となっている。

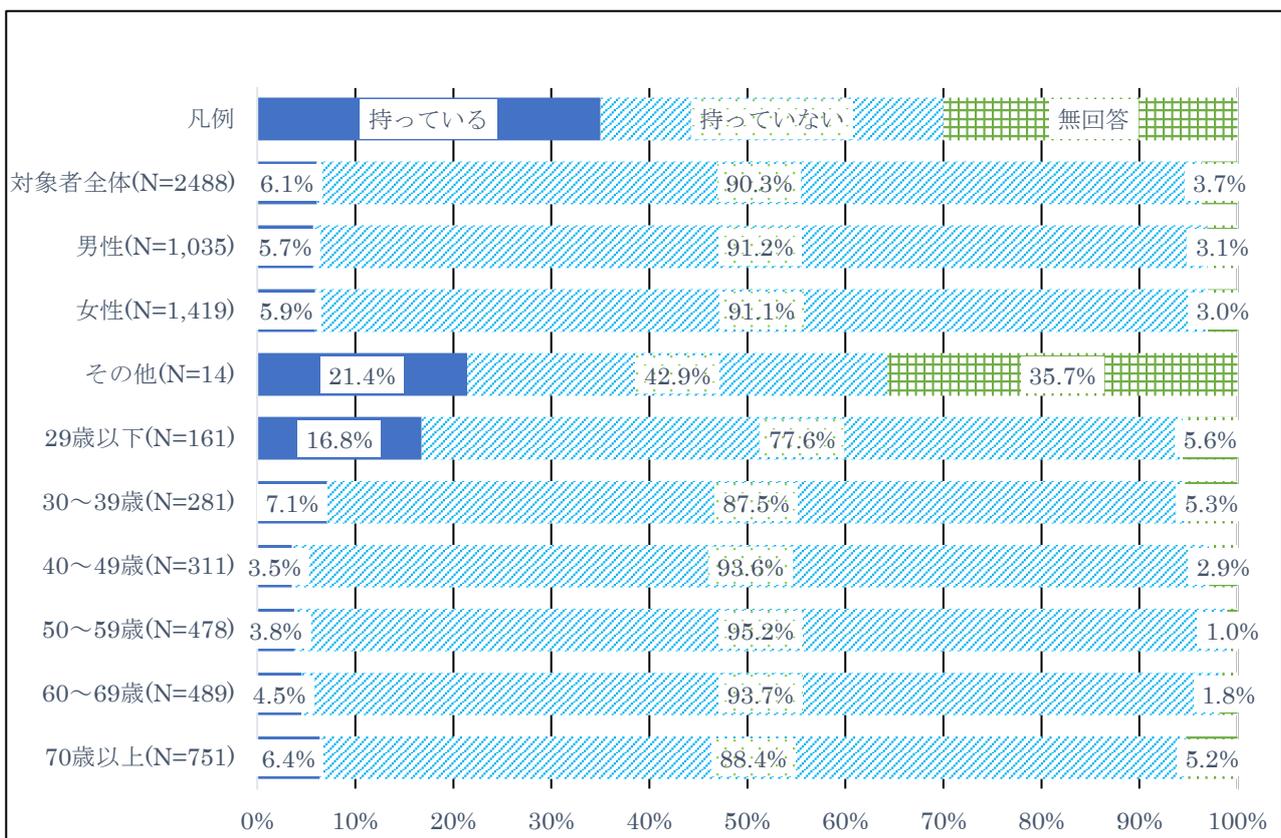
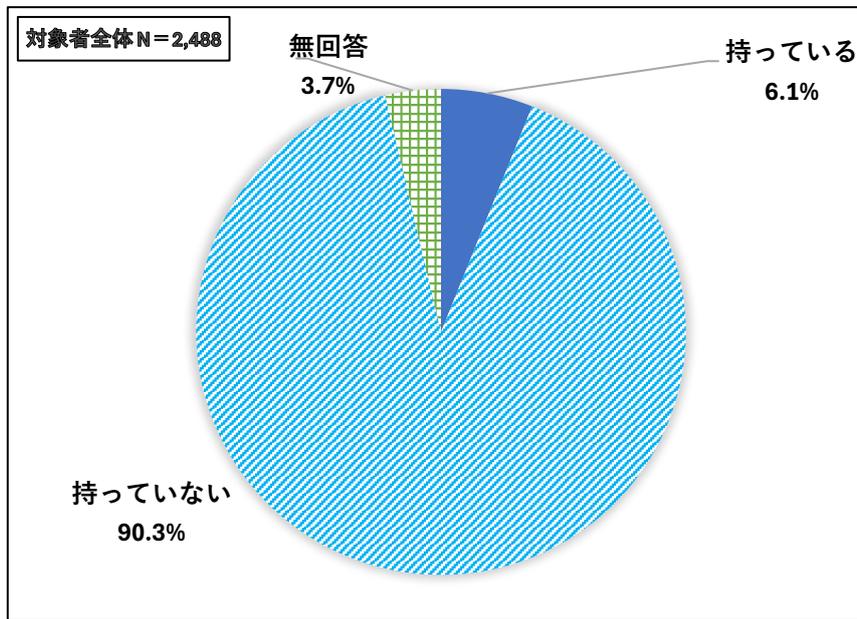
【性別】「新聞・テレビなどの報道」、「家族、知人」は、男性が女性より6.4ポイント以上高くなっている。また、「広報さっぽろ」は、女性が80.2%と、男性の73.6%より6.6ポイント高くなっている。

【年代別】50歳代では「新聞・テレビなどの報道」が最も高く、29歳以下、30歳代、40歳代、60歳代、70歳以上では「広報さっぽろ」が最も高くなっている。

◇障がい者手帳(身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者手帳)の保有状況
《皆さまにお聞きします》

問34 あなたは、障がい者手帳(身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳)を持っていますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

障がい者手帳の保有状況は、「持っていない」人が90.3%



【全 体】障がい者手帳の保有状況は、「持っていない」が90.3%、「持っている」が6.1%となっている。

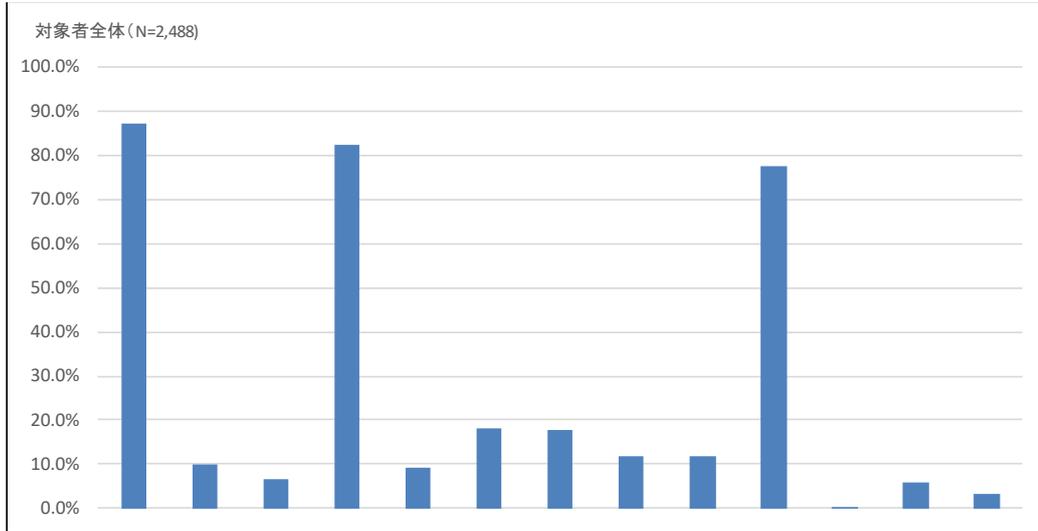
【性 別】男女で大きな差は見られない。

【年代別】「持っている」が30歳代(7.1%)で最も多く、次いで70歳以上(6.4%)、60歳代(4.5%)となっている。

◇障害のある方が使用するコミュニケーション手段で、知っているもの

問35 障がいのある方が使用するコミュニケーション手段で、あなたが知っているものは何ですか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。(ご自身でその手段の表現ができなくても構いません。知っているものに○をつけてください。)

障がいのある方が使用するコミュニケーション手段で知っているものは、「手話」が87.1%



	対象者数	手話	要約筆記	触手話	点字	指点字	手のひら書き	音訳	口文字	意思伝達装置	筆談	その他	特になし	無回答	
(%)															
対象者全体	2,488	87.1%	10.1%	6.5%	82.4%	9.1%	18.0%	17.9%	11.8%	11.9%	77.5%	0.4%	5.7%	3.3%	
性別	男性	1,035	95.3%	12.0%	8.6%	75.7%	9.8%	23.8%	18.7%	13.1%	12.5%	90.6%	0.5%	8.6%	2.9%
	女性	1,419	82.6%	8.8%	5.1%	87.7%	8.9%	13.7%	17.3%	11.1%	11.6%	67.7%	0.3%	3.7%	3.7%
	無回答	20	42.9%	14.3%	0.0%	71.4%	0.0%	28.6%	14.3%	0.0%	14.3%	71.4%	0.0%	50.0%	0.0%
年代別	29歳以下	161	90.7%	6.8%	8.1%	79.5%	5.6%	15.5%	25.5%	19.3%	11.2%	98.8%	0.6%	15.5%	6.8%
	30～39歳	281	94.0%	5.3%	4.3%	77.2%	8.9%	27.8%	34.9%	16.4%	26.0%	71.5%	0.7%	5.3%	5.7%
	40～49歳	311	93.2%	18.0%	2.9%	82.0%	11.3%	27.3%	31.5%	19.0%	11.3%	83.6%	0.3%	8.0%	1.6%
	50～59歳	478	83.3%	7.3%	3.1%	81.2%	5.4%	22.6%	15.7%	12.3%	10.3%	77.0%	0.4%	6.1%	1.7%
	60～69歳	489	81.6%	3.3%	5.9%	76.7%	9.6%	16.0%	9.8%	6.5%	9.8%	74.6%	0.0%	4.3%	1.8%
	70歳以上	751	87.9%	14.5%	9.1%	90.1%	10.1%	8.1%	10.8%	7.9%	8.4%	76.4%	0.4%	3.1%	3.5%

■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い
 ■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全体】障がいのある方が使用するコミュニケーション手段で知っているものは、「手話」が87.1%、「点字」が82.4%、「筆談」が77.5%となっている。

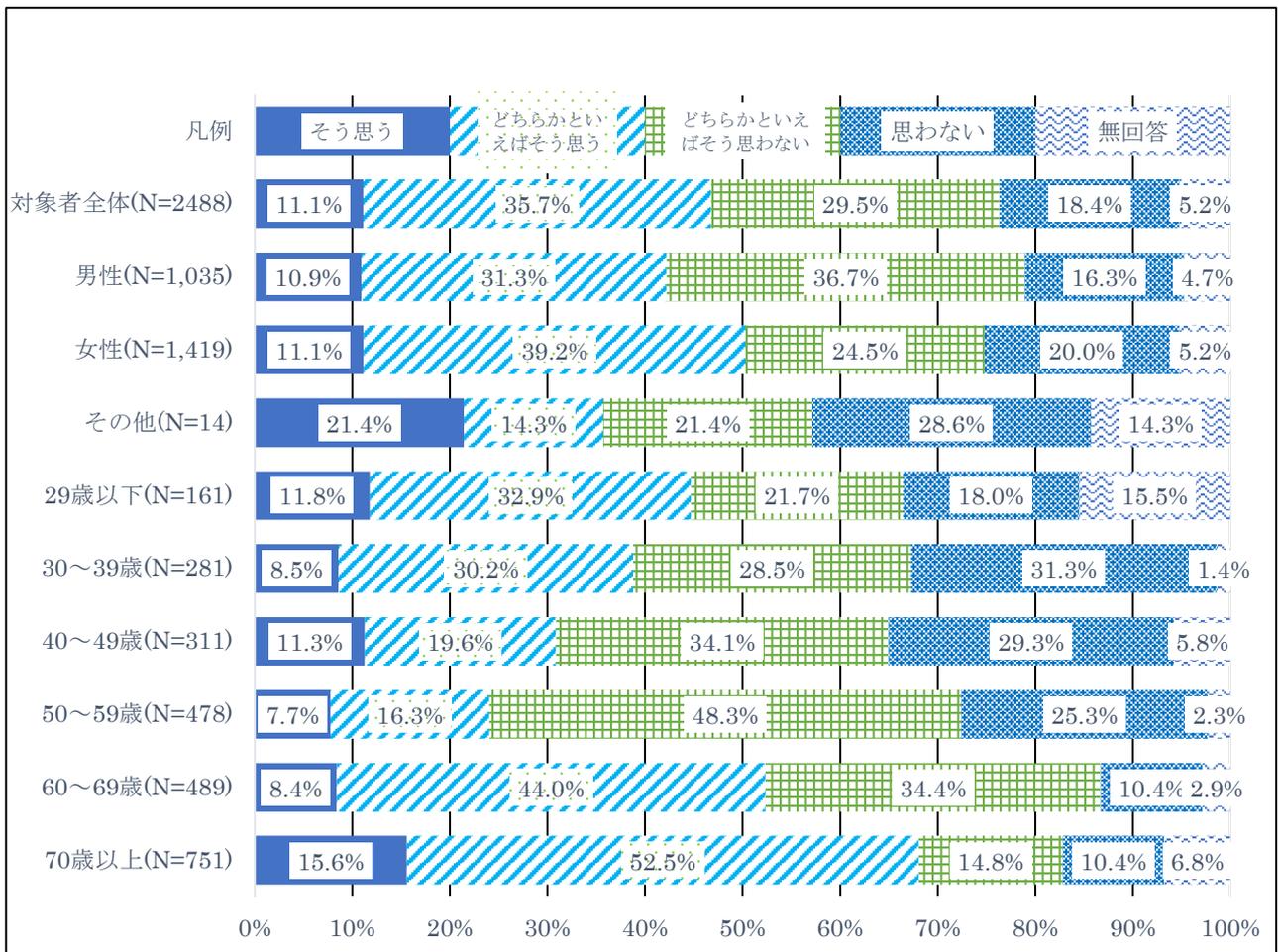
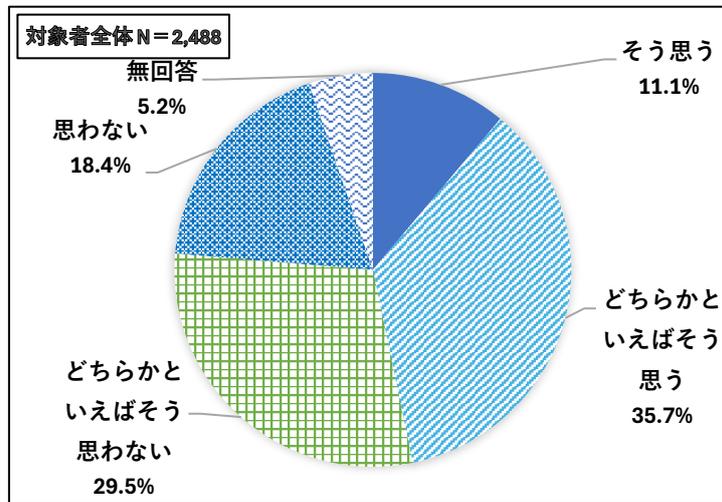
【性別】「手話」、「手のひら書き」、「筆談」は男性が女性より10.1ポイント以上高くなっている。一方「点字」は男性の75.7%に対して女性が87.7%と12ポイント高くなっている。

【年代別】29歳以下、では「筆談」が最も高く、30歳代、40歳代、50歳代60歳代、70歳以上では「手話」が最も高くなっている。

◇障がいのある方が使用するコミュニケーション手段について、学んでみたい、または、知りたいと思うか
問 36 障がいのある方が使用するコミュニケーション手段について、あなたは学んでみたい、または、知りたい
 と思いますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

障がいのある方が使用するコミュニケーション手段について学んでみたい・知りたいと思うかは、
 “思う” が46.8%

※“思う”(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)



【全 体】障がいのある方が使用するコミュニケーション手段について学んでみたい・知りたいと思うかは、「そう思う」が11.1%、「どちらかといえばそう思う」が35.7%、合わせると46.8%となっている。一方で、「どちらかといえば思わない」が29.5%、「思わない」が18.4%、合わせると47.9%となっている。

【性 別】“思う”は女性が50.3%と、男性の42.2%より8.1ポイント高くなっている。

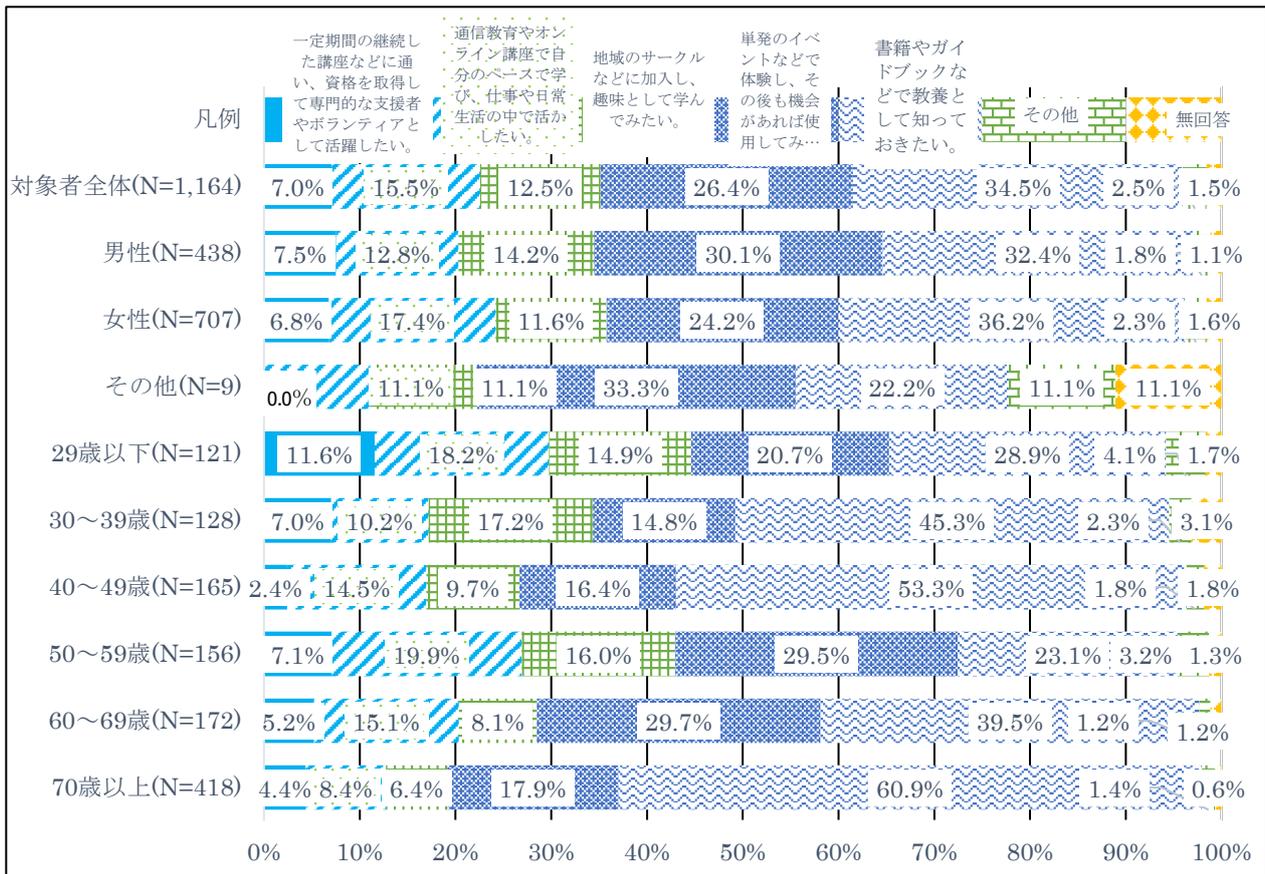
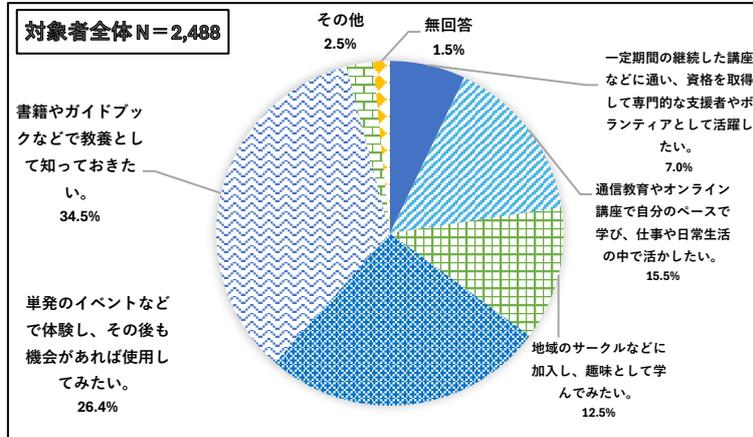
【年代別】“思う”が70歳以上(68.1%)で最も高く、最も低い50歳代(24.0%)と比べると44.1ポイントの差がある。

◇障がいのある方が使用するコミュニケーション手段について、どの程度学んでみたい、または、知りたいか

《問36で「1 そう思う」または「2 どちらかといえばそう思う」と答えた方にお聞きします。

問36-1 あなたは、障がいのある方が使用するコミュニケーション手段について、どの程度学んでみたい、または、知りたいと思いますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

障がいのある方が使用するコミュニケーション手段についてどの程度学んでみたい・知りたいと思うかは、「書籍やガイドブックなどで教養として知っておきたい。」と回答した人が34.5%



【全体】障がいのある方が使用するコミュニケーション手段についてどの程度学んでみたい・知りたいと思うかは、「書籍やガイドブックなどで教養として知っておきたい。」が34.5%、「単発のイベントなどで体験し、その後も機会があれば使用してみたい。」が26.4%、「通信教育やオンライン講座で自分のペースで学び、仕事や日常生活の中で活かしたい。」が15.5%となっている。

【性別】「単発のイベントなどで体験したい」は、男性が30.1%と、女性の24.2%より5.9ポイント高くなっている。

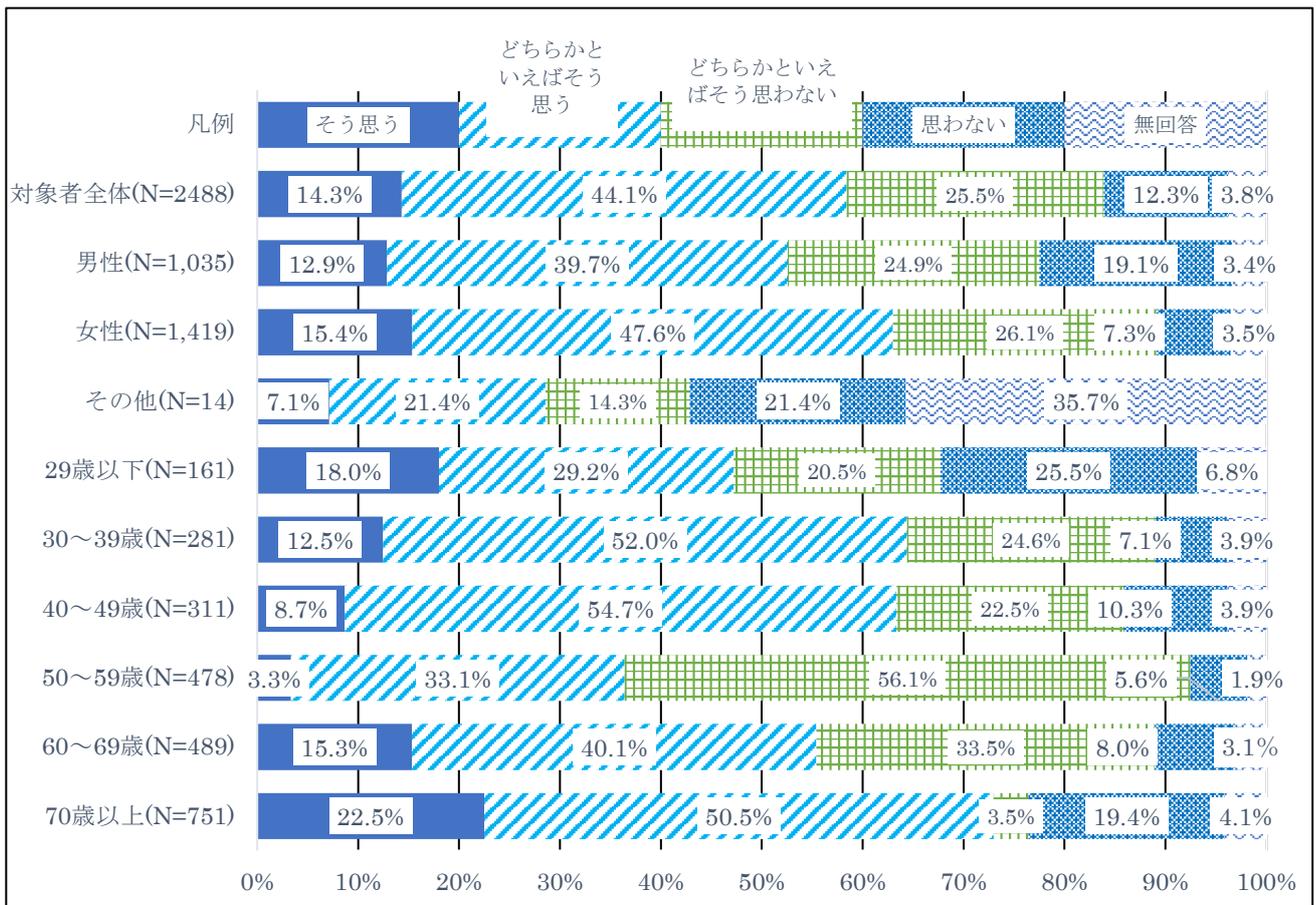
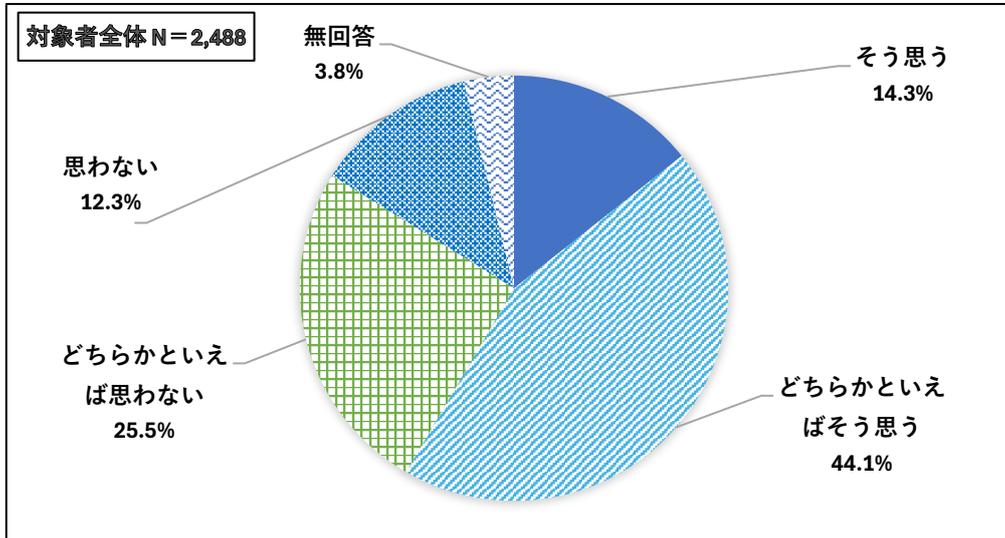
【年代別】「書籍やガイドブックなどで教養として知っておきたい。」が70歳以上(60.9%)で最も高く、最も低い50歳代(23.1%)と比べると37.8ポイントの差となっている。

◇コミュニケーションに障がいのある方が暮らしやすいまちを作るために、何か取り組みたいと思うか
《皆さまにお聞きします》

問37 コミュニケーションに障がいのある方が暮らしやすいまちを作るために、何か取り組みたいと思いますか。
あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

コミュニケーション上の障がいのある方が暮らしやすいまちをつかっていくため、何かに取り組みたいと思うかは、“思う”が58.4%

※“思う”(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)



【全体】コミュニケーション上の障がいのある方が暮らしやすいまちをつかっていくため、何かに取り組みたいと思うかは、「そう思う」が14.3%、「どちらかといえばそう思う」が44.1%、合わせると58.4%となっている。一方で、「どちらかといえば思わない」が25.5%、「思わない」が12.3%、合わせると37.8%となっている。

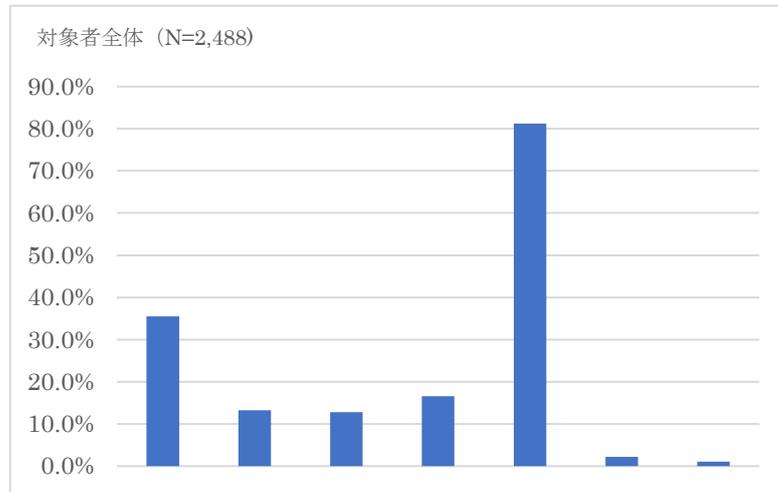
【性別】“思う”は女性で63.0%と、男性の52.6%より10.4ポイント高くなっている。

【年代別】“思う”が70歳以上(73.0%)で最も高く、次いで30歳代(64.5%)、40歳代(63.4%)となっている。

◇コミュニケーション上の障がいのある方が暮らしやすいまちを作るために、具体的に取り組みたいこと
 《問37で「1 そう思う」または「2 どちらかといえばそう思う」と答えた方にお聞きします。》

問37-1 コミュニケーションに障がいのある方が暮らしやすいまちを作るために、具体的に取り組みたいと思うことはありますか。あてはまるものはいくつでも○をつけてください。

コミュニケーション上の障がいのある方が暮らしやすいまちをつくっていただくために取り組みたいことは、「日常生活で困っている方がいたら助ける」と回答した人が81.2%



		対象者数	メディア(テレビやSNSなど)の中で、障がいに関する情報があればチェックする	講座に参加するなど、障がいのある方のコミュニケーション手段を学習し、実践する	ボランティア活動へ参加する	障がいのある方が行う行事、催し物に参加する	日常生活の場面で困っている方がいたら助ける	その他	無回答
		(%)							
対象者全体		1,423	35.5%	13.3%	12.8%	16.6%	81.2%	2.2%	1.0%
性別	男性	543	47.1%	15.4%	13.6%	19.5%	91.0%	2.0%	1.3%
	女性	813	28.5%	12.0%	12.4%	14.8%	76.1%	2.2%	0.9%
	その他	5	25.0%	0.0%	25.0%	25.0%	0.0%	25.0%	0.0%
年代別	29歳以下	353	44.7%	22.4%	23.7%	34.2%	72.4%	3.9%	3.9%
	30～39歳	342	32.6%	5.5%	5.0%	8.3%	54.1%	3.9%	1.1%
	40～49歳	459	44.2%	13.2%	6.1%	13.2%	87.3%	0.0%	0.5%
	50～59歳	446	59.8%	10.9%	8.0%	23.6%	91.4%	4.6%	1.7%
	60～69歳	777	26.2%	7.4%	11.1%	4.1%	97.4%	1.1%	0.4%
	70歳以上	452	29.2%	18.1%	18.2%	22.1%	97.1%	1.8%	0.7%

■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い
 □ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全体】コミュニケーション上の障がいのある方が暮らしやすいまちをつくっていくために取り組みたいことは、「日常生活で困っている方がいたら助ける」が81.2%、「メディア(テレビやSNSなど)の中で、障がいに関する情報があれば気を配る」が35.5%、「障がいのある方が行う行事、催し物に参加する」が16.6%となっている。

【性別】「メディアで、障がいに関する情報があればチェックする」「日常生活で困っている方がいたら助ける」で、男性が女性より14.9ポイント高くなっている。

【年代別】「日常生活で困っている方がいたら助ける」が70歳以上(97.1%)で最も高く、次いで50歳代(91.4%)、40歳代(87.3%)となっている。